

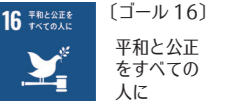


くらしの中のSDGs

Vol.5

平和のために  
できること

今月のテーマ

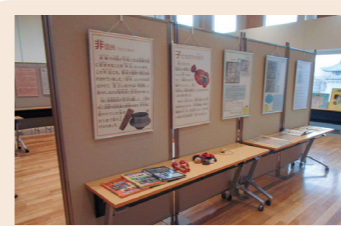


SDGsのゴール16「平和と公正をすべての人に」は、世界中の全ての人が、差別や暴力を受けることなく、災害や紛争のない世界で安心して生活を送りながら、それぞれの違いを認め、公正に話し合いをすることができるとして、実現することとしています。

暴力や人権侵害など、平和な社会の実現のために解決すべき問題はたくさんあります。問題解決のためには、世界で何が起きているのか、平和とは何かを知り、自分ができることを見つけて行動することが大切になってきます。

市では、市民の大半が戦争を知らない世代となる中、戦争の悲惨さと愚かさを次の世代に伝え、一人一人が平和を守るための大切さを考えるよう働き掛けるため、平成元年に広島市の平和記念日である8月6日を「高知市平和の日」と定めました。

この制定をきっかけに始まった「高知市平和の日記念事業」では、戦争を体験した世代から戦争を知らない世代まで、たくさんの人に



▲昨年の企画展の様子  
ことしの「高知市平和の日」記念事業は8月1日(火)～6日(日)に行います。詳しくは17ページをご覧ください。

【問い合わせ】総務課国際平和担当  
0878-6055

# 撮りだち トピック photo スNews

まちの出来事を写真でお届け

2023

6.1

〔木〕



6.30

〔金〕

詳しくは  
Facebookで▶



6月1日(木)  
高知市で初開催！  
プライド月間  
キャンペーン

世界各地でLGBTQ+の権利向上等呼び掛けている「プライド月間」に合わせて、パネル展や大橋通り商店街アーケードへのフラフ掲出等を行いました。



6月4日(日)  
水のふるさと  
フェスティバル  
2023

ポンプ場の仕組みを学べるスーパーボールすくいコーナーなど、子どもたちが楽しみながら水道や下水道についての知識を深めていました。



6月18日(日)  
こうちこどもファン  
ド公開審査会を  
開催

個性あふれるプレゼンテーションに「こども審査員」から多くの質問があり、白熱した議論が行われました。審査の結果、12団体全ての助成が決定しました。



6月4日(日)  
梅雨の風物詩  
はるのあじさい  
まつり

たくさんのアジサイが青空に映え、多くの人たちが梅雨の合間にアジサイを愛でながら春野のまちを散策していました。



6月17日(土)  
おいでよ！高知市  
環境イベント in  
イオンモール高知

ごみの分別を確認するゲームや「環境選隊クリーンレンジャー」によるショーなど、大人から子どもまで環境問題を考えながらイベントを楽しんでいました。



6月26日(月)  
潮江南地域コミュ  
ニティ計画の策定  
報告会

約3年にわたる計画策定会議を経て完成した計画について、市長へ報告を行いました。「みんながハッピーで笑顔あふれる未来のまち！」をめざします。

## 市役所の推しゴト！

声と点字の図書館 編

こんな仕事をしている課です

録音図書・点字図書などの

製作

無料郵送  
サービス

貸し出し

その他の  
業務内容は  
こちらから



▲声と点字の図書館の皆さん



市役所のお仕事を紹介します

### 知っていますか？「録音図書貸し出しサービス」

障害や高齢などで読書が難しい方に、本の内容をCDなどに収録した録音図書の貸し出しや郵送サービスを行っています。

#### あなた好みの録音図書探しをサポート！

録音図書には、ベストセラーやミステリーなどの小説のほか、週刊誌などの雑誌もあります。どんな録音図書を借りるか悩んだときは、電話などで司書と相談しながら、選ぶこともできます。



#### 録音図書は郵送できます

録音図書はご自宅へ無料で郵送できます。また、録音図書を聞くための録音図書再生機の貸し出しもしています。お気軽にお問い合わせください。

▲録音図書再生機

【問い合わせ】声と点字の図書館 ☎ 823-9488

## 歴史万華鏡

— unravel the history of Kochi —  
(130回)

### 牧野富太郎と自由民権運動

高知市立自由民権記念館  
館長 筒井 秀一

NHK連続テレビ小説「らんまん」で「楠野喜江」が持っていた「声明社」演説会のビラには発起人に「早川逸馬・酒井南津男・宮地春繁・能勢源助・小藤猛太郎」とあった。

これは酒井が坂本南海男、宮地が宮地茂春、能勢が能勢源之助、小藤が後藤藤太郎からきているのではないかと想像される。早川には、名前から類推できる土佐の民権家はいないようだ。植木枝盛ら若手民権家の雰囲気でも造形されたものではないだろうか。

「らんまん」では、主人公の「横野万太郎」がひょんなことから自由民権運動に巻き込まれ、共感しながらも涙をのんで決別し、植物学の道に進むという展開になった。

牧野富太郎が自由民権運動に参加していたことは事実である。当時の新聞では、明治十四年から十六年にかけて佐川村で開催された民権派の懇親会で演説したことが報道されている。

自伝では「私も熱心な党員の一人であって、大いに氣勢をあげた。懇親会にはしばしば出席し、肩を怒らして時局を談じた。しかし、政治論争の時間を、植物研究に向けるべきであると悟った。そこで、私は自由党を脱党す

ることにした。自由党の同志たちも、私の決心を諒とし、この脱党を許してくれた」と語っている。

写真は、川田家が所蔵しており、明治十六年十二月に高知の写真館で撮影されたものである。中央が牧野富太郎(二十一歳)、向かって右が川田豊太郎(十五歳)、左が山崎卯子(十七歳)。このころ彼らは自由民権運動で活動していた。意気盛んな明治の青年の風貌が印象的である。

牧野は翌年上京し、東京大学の門をたたき、川田は私設図書館川田文庫(現青山文庫)を創設し、地域文化における名望家となる。山崎はその後も自由民権運動で活躍し、明治二十五年の選挙大干渉の際、斗賀野で起こった民権・国民両派の激突(野地騒動)で死亡した。

